

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-----|-----------------|----|------|----|-------|----|----------------|----|---------|-------|-------|---|---|----|
| 学校番号 | 中学 9 | 学校名 | 県立下妻第一高等学校附属中学校 | | | | | 課程 | — | | 学校長名 | 生井 秀一 | | | | |
| 教頭名 | 小倉 裕子 | | | | | | | | | | 事務(室)長名 | 佐藤 房雄 | | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 12 | 養護教諭 | 1 | 常勤講師 | | 非常勤講師 | 1 | 実習教諭、実習講師、実習助手 | | 事務職員 | | 技術職員等 | 1 | 計 | 15 |
| | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 合計 | | | 合計 | | | |
| 生徒数 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | クラス数 | | | |
| | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 60 | 60 | 3 | | | | | |

2 目指す学校像

【学校教育目標】

グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ」をもった生徒の育成

【目指す学校像】

主体性をもって様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校

【育てたい生徒像】

- よりよい未来の創造に向かって主体的に挑戦し、心身ともにたくましく成長する生徒
- どんな状況にも柔軟に対応できる汎用能力をもつ生徒
- 多様性を尊重し、合意形成を図りながら、他者と対話し、協働できる生徒
- デジタルの効果的な活用をとおして、社会課題を自ら設定し、解決に向けて行動できる生徒

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|------|--|---|
| 学習指導 | <p>探究的な学びを基盤とした課題解決型授業を各教科で実践し、9割以上の生徒・保護者が授業について肯定的な回答をしている。また、国語科、数学科、英語科では、少人数に分けた授業展開やチームティーチングによる授業を積極的に行っており、9割近い生徒・保護者が「きめ細やかな学習指導が行われている」と回答している。さらに、双方向可能なアプリを導入したICT機器の活用では9割を超える生徒・保護者から「積極的に活用している」と回答が得られた。</p> <p>定期考査は実施せず、各教科において、単元テストやパフォーマンステスト等を計画的に実施しており、生徒の学習到達度や学習状況を多面的に把握している。</p> <p>また、各種テストの振り返りや級監面談等の機会を設け、生徒が自身の学習を見直す機会をつくっており、8割近い生徒が「進んで学習している」と回答している。</p> | <p>課題解決型授業を継続して組織的に行うためには、相互授業参観の実施や課題解決型授業の研究と研修、教員間の情報交換、またはICT機器の効果的な活用方法を研究し、授業改善を図っていくことが必要である。</p> <p>また、「指導と評価の一体化」を目指した観点別評価規準と評価の手立てについても引き続き検討し、生徒の学びを支援し、生徒の学びを最大限に引き出せるような授業改善を図っていくことが必要である。</p> <p>それらの実現のために、組織的に学習支援体制を確立し、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学び、そして協働的な学びの充実を図り、主体的・教科横断的に学習ができる生徒を育成することが課題である。</p> <p>それにより、生徒の自己調整力が高まり、学力の向上につながる。そのために、授業内評価や単元テスト、小テストを計画的にこまめに実施することで生徒の学習到達度や学習状況を把握し、生徒にフィードバックする必要がある。具体的には、各種テスト後に教科面談や級監面談を計画的に実施し、生徒が学習のPDCAサイクルを見直す機会をつくることで、主体的に学習に取り組む生徒の育成と学力の向上を図っていききたい。</p> |
| 生徒支援 | <p>多くの生徒が高い規範意識を持ち、他者と関わる状況において高いコミュニケーション力を発揮している。</p> <p>生徒一人一人が自分なりの目標をもち、高い自立心と正しい判断力のもと行動しようとする姿勢が見られる。また、規則正しい生活を送っており、元気な挨拶、正しい身なり、時間を守って行動するなどの基本的な生活習慣が身に付いている。</p> <p>生徒が自身のスマートフォンやパソコンを授業や日常生活の中で使用する場面が多くなっている。</p> | <p>日頃の生活において規範意識、モラル、マナーの理解を深め、それに基づいて生徒自らが考え行動し、社会生活に活かすベースを育てる機会をつくっていく。特に他者を尊重し、相手を理解し行動に移す機会を増やす。</p> <p>学習面や学校生活において自ら設定した目標が達成できず、自己肯定感が低下し登校に消極的になる生徒や、友人や家庭での人間関係上のストレスや発達段階特有の悩みを抱え、今ある困難にどう対処し克服すべきかわからず苦しむ生徒もいる。</p> <p>自分のスマートフォンやパソコンを所持し、SNS やオンラインゲーム等のサービスを利用する生徒が増える時期であることから、インターネット上の犯罪やトラブル等の被害に巻き込まれる可能性が高まることが考えられる。</p> |

別紙様式 1 (中)

| | | |
|---------------|--|---|
| <p>キャリア教育</p> | <p>企業訪問等の校外学習、先輩講話やキャリア講演会、医学セミナー等、各分野のトップランナーから学んだり、探究活動において高校生、県内附属中生等と交流したりする、実践的・体験的活動の機会を十分に得ることができている。</p> <p>一方で、このような活動を実施しているものの、生徒が自らの学習状況を振り返る機会を十分に確保できていないため、学習したことを生かせず、キャリア形成との結び付きが十分ではない。</p> | <p>生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて基盤となる基礎的・汎用的能力（人間関係形成能力、自己理解・自己管理能力、課題発見能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を育むために、探究活動や学校行事、企業見学等校外学習等の体験活動に、系統性や一貫性をもたせていく必要がある。</p> <p>また、キャリアパスポートの効果的な活用をとおして、それぞれの活動を振り返る機会を設定し、生徒が自分の将来の生き方について考えられるようにしていきたい。</p> |
| <p>特別活動</p> | <p>多くの生徒が自立心を持ち、主体的に活動に取り組み、学校行事等を通してリーダーシップを発揮することができている。また、集団の一員としての自覚を持ち、協働で活動を行うことができる。他者に対して尊重する気持ちを持ち、進んで仕事を行うなどのボランティア活動の意義を理解している。</p> | <p>ホームルーム活動、学校行事、部活動への参加等の活動を通して、他者理解や協働性を高め、リーダーシップを育む必要がある。また、高校生との合同による活動等の異年齢交流をとおして社会性と集団の中での責任やマナーを養う場面を意図的に取り入れ、将来のキャリア形成に繋がるような指導を心がけなければならない。一方で、既存の学校行事の充実を図るとともに、内容の精選に取り組む必要があると考える。</p> |
| <p>働き方改革</p> | <p>令和6年度の時間外在校時間の月平均時間は17時間57分、月平均45時間超過者の割合は11.4%である。限られた人数で校務全般を担っているため、一部の職員に業務が偏ってしまったり、各分掌間で連携が図れなかったりすることがある。</p> | <p>教職員個々の働き方に対する意識改革に努め、スケジュール管理能力を高める必要がある。</p> <p>教職員全員が校務全般を自分事として捉え、お互いをフォローし合えるような組織体制を構築していく必要がある。</p> |

4 中期的目標

| |
|---|
| <p>1 「探究的な学び」を基盤とした、主体的・協働的で深い学びの実現を図る。 ※総合的な学習の時間における「探究活動×国際教育」の充実</p> <p>2 生徒の問いから始まる課題解決型学習や一人一人のニーズに応じた個別最適な学習をとおして、確かな学力を育む。</p> <p>3 的確な生徒理解に努め、体験活動や交流活動をとおして、豊かな人間性や心身の健康を育む。</p> <p>4 教職員のパフォーマンス向上を図る働き方改革を推進する。(1か月の勤務時間外在校等時間45時間以内)</p> |
|---|

別紙様式 1 (中)

5 本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 |
|---------------------------|--|
| 探究的な学びと個別最適な学習の充実 | <p>①生徒の「なぜ? どうして?」を授業のキーワードとした課題解決型授業を実践する。</p> <p>②少人数授業展開やTTによる授業を実践することで、個別最適できめ細やかな学習指導を行う。</p> <p>③1人1台端末やICT機器を効果的に活用することで、主体的・対話的で深い学びを実践する。</p> <p>④生徒の学びを最大限に支援し、生徒の学びを最大限に引き出すために、授業内評価、単元テストや小テスト、教科面談や級監面談を計画的に実施し、生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成と学力の向上を図る。</p> <p>⑤「分からない」を大切に探究的な学びをとおして、教科横断的な学習ができる生徒を育てる。</p> |
| 基本的な生活習慣の確立と自主的、自立的な態度の育成 | <p>⑥挨拶や生活のきまり、礼儀やマナーについて学活等で適宜指導を行い、附属中生としての生活習慣の基礎を確立する。</p> <p>⑦各委員会活動や係活動を充実させ、生徒が主体的に取り組める行事等を企画し、自主的、自立的な態度を育成する。</p> <p>⑧生徒が主体的に取り組めるよう、課題解決型授業を積極的に実践していくとともに、生徒の実態に即した学習習慣のさらなる定着を図る。</p> <p>⑨探究活動および探究プロジェクト関連行事等とおして、コミュニケーション力や実行力、発信力、創造力等豊かな人間性を育むとともに、課題解決に向け粘り強く物事に取り組む忍耐力や、その過程で経験する困難に遭遇しても自ら置かれた状況に適応することにより苦しみを克服することができる力（レジリエンス）といった精神的なたくましさも育む。</p> <p>⑩高校生等との異年齢交流を推進し、自立心とリーダー性を育てる。</p> <p>⑪給食指導や食育等とおして、基本的な生活習慣と健康的な心身の育成に努める。</p> |
| 特別活動の充実 | <p>⑫自ら考え、自ら行動する活動の充実を図る。</p> <p>⑬学校行事等とおして、他者理解を深め、人間性や社会性の育成を図る。</p> <p>⑭クラス運営に必要な組織をつくり、適切な役割分担ができる活動の充実を図る。</p> <p>⑮積極的な生徒会活動、部活動への参加を促進する。</p> <p>⑯キャリア・パスポートの活用とおして、小中高と継続的なキャリア形成を支援する。</p> <p>⑰体験活動や交流活動とおして、自分の生き方について考える機会を設ける。</p> |

別紙様式 1 (中)

| | |
|-----------------------|---|
| <p>広報活動の推進と外部との連携</p> | <p>⑱生徒の主体的な発信を掲載し、学校ホームページの充実を図る。 ⑲生徒中心による小中連携や中高連携、学校説明会や学校公開、公開授業等の内容を充実させる。 ⑳下妻市役所や地元企業、大学等との連携をとおした学習活動を実施する。 ㉑高校との異年齢交流を推進する。 ㉒卒業生や地域の方々、外部機関との交流を図り、自分の生き方やキャリアについて考える力を養う。</p> |
| <p>働き方改革の推進</p> | <p>㉓学校全体で、削減する業務を洗い出す機会を設定し、業務の適正化に努める。 ㉔デジタル機器を効果的に活用し、情報共有の簡易化・効率化に努める。 ㉕働き方改革推進委員会において、教職員が主体的に具体的な改革案を提案し、推進する。 ㉖教職員個人のスケジュール管理能力を高め、業務の効率化を図る。</p> |
| <p>キャリア教育の充実</p> | <p>㉗各種校外学習やセミナー等をとおして、自身の興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成を図る。 ㉘探究学習や学校行事等をとおして、人間関係形成能力や自己管理能力、課題発見能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の涵養を図る。 ㉙キャリア・パスポートを活用し、自己理解や自己受容の深化を図る。</p> |
| <p>授業改善と学習評価の充実</p> | <p>㉚計画的に学習指導方法や観点別評価方法を研究・実践し、教員間で情報交換することで授業改善を図る。 ㉛他校視察や相互授業参観、または各種研修会へ積極的に参加することで授業改善を図る。 ㉜生徒による「授業満足度」の平均値3.2以上を目指す。</p> |

「チャレンジプロジェクト」について

1 探究活動

社会課題を発見し、その解決に向けて行動する力をつける。

- ・ 総合探究 探究学習の基礎を身に付け、地域の課題解決や発展に貢献しようとする意欲を養う。
- ・ 探究ゼミ 自分の興味関心に基づいた学術分野についての教養や探究心を高める。
- ・ キャリア探究 自分らしい夢を描き、様々な体験をとおして、自分になりたいキャリアの選択肢を広げる。(企業訪問、講話等)

2 国際教育 (為櫻グローバルプログラム)

国際的視野に立って考え、主体的に行動できる力をつける。(海外研修、国内語学研修、国際交流等)